

**国交省へ板金が要望
瓦・金属への改修に助成**

東京都板金工業組合(堀江岳理事長、350社)や神奈川県板金工業組合(市川肇理事長、205社)らは10月14日、国土交通省住宅局の和田信貴局長に「金属屋根改修工事に係る要望書」を提出した。内容は、瓦屋根の葺き替えの際に金属

屋根材に替える改修費用の一部補助を要望するもの。

要望書の提出には東京、神奈川の板金工業組合のほか、東京鉄鋼二次製品協議会、神奈川県鉄鋼二次製品協議会、金属屋根材メーカーのマックス建材(株)(神奈川)、建材販売などを挙げる(株)エイトノット(同)のほか、国会議員も同行した。

屋根改修への補助を要望

災害に強い屋根へ

マックス建材など6者

マックス建材(横浜市、榎本浩康社長)と東京都板金工業組合、神奈川県板金工業組合など6者はさきごろ、「金属屋根改修工事に関する要望書」を国土交通省住宅局に提出した。

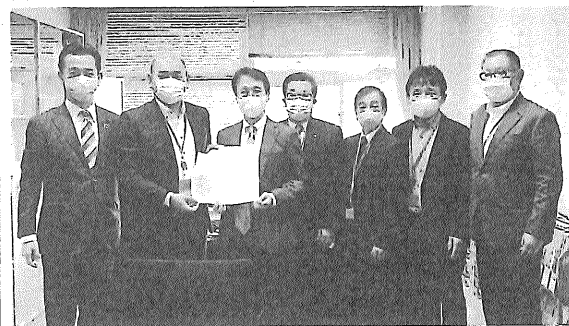
2020年の台風発生数は現時点で22。18、19年はいずれも29の台風が発生した。19年の台風15号や18年の台風21号により、住宅の瓦屋根が飛ばされるなどの大きな被害が出たことは記憶に新しい。

年々大型化する台風や耐震性の面から、住宅の屋根の軽量化が関

心を集めている。軽くて丈夫な屋根への改修ニーズも高まっている。

要望書は、瓦屋根から金属屋根へのふき替え工事に対して、改修費用の一部補助を求めるものだ。

戸建て住宅の場合、和瓦から金属屋根へのふき替えで1棟150万〜200万円(足場



左から岡本議員、大橋寿昭エイトノット社長、和田信貴住宅局長、榎本社長、宇井一男神奈川鉄二協会長

込み)の屋根改修費が掛かる試算だ。こうした改修費の一部を補助することで、瓦屋根の被害を最小限にとどめたいという思いがある。

榎本社長は「先の台風15号の被害を受けた千葉では、いまだ屋根にブルーシートがかかっている住宅を見かけられる。金属屋根事業の一端を担うメ

「カー」として、強度のある屋根へのふき替えを促していきたい。改修に一部でも補助が出れば、こうした需要を後押しできるのではないかと考えた。要望に対する感触は良かったと思う」と話す。

要望者は、マックス建材、エイトノット(川崎市)、東京都板金工業組合、神奈川県板金工業組合、東京鉄鋼二次製品協議会、神奈川県鉄鋼二次製品協議会、神奈川鉄鋼二次製品協議会。申し入れ参加者は岡本議員と岡本三成家

部を補助することで、ふき替えを促し、瓦屋根の被害を最小限にとどめたいという思いがある。

榎本社長は「先の台風15号の被害を受けた千葉では、いまだ屋根にブルーシートがかかっている住宅を見かけられる。金属屋根事業の一端を担うメ